
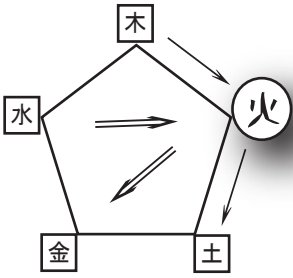
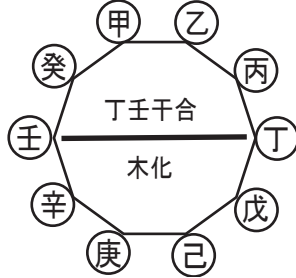


丁		ひと	テイカ	火の陰	人工の火・焚き火・ともし火・暖炉	正義感と秘めた情熱																									
仁(木)	思いやり・人情			上の立場にありながらおごらず慈愛にて善事を行う																											
○ 礼(火)	礼節・秩序			尊と卑を分別し上を敬い下を侮らない心																											
信(土)	信念・信用			人を欺かず誠実で温厚篤実なこと																											
義(金)	義理・正義			善悪を分別判断し、善に従い悪を退ける順理を尊ぶ																											
智(水)	知識・知能			万事の前兆を予知し善悪を見抜き策略を練る																											
傾向	直観的傾向		■体の特徴																												
関心事	性・肉体の要求		・後ろ重心でしゃがむと踵が浮いてしまう。																												
本能	種族保存本能		・出産すると、もしくは中年になると太る。																												
囚われ	細部		・骨盤が開きやすく、お尻がだだっ広い。																												
能力	分散力と集中力		■性格																												
養生方法	性の充実		・自分が頼られているという感覚が、心の支えになっている。																												
音楽の聴き方	音と音の間に関心を持つ		・好き嫌いは態度には出さないが、かなり激しい。																												
持ちやすい感情	喜び		・羽目をはずすことがめったにない。																												
よく使う感覚	触覚・皮膚感覚に優れる		・一度決めたことでも、何度も悩んでしまう。																												
器官	生殖器系		・下品なものを極端に嫌う。																												
対応臓器	心臓・小腸		・本当に信頼する人にだけ、心の奥を開く。																												
脳内ホルモン	ドーパミン(快感ホルモン)		・嫌なことは自分の中で分散し、人間関係のいざこざを起ささない。																												
エネルギーの方向性	自分の喜びも人の喜びも共感しようとする方向へ向けられる																														
■キーワード 長所				■キーワード 短所																											
奥ゆかしい・溫柔・義理人情・善悪に敏感・情熱的・正義感・丁寧・癒し系・穏やかな口調・頼られたい・知的・知恵がある・文化的・世話好き				考えすぎる・勇気がない・決断できない・嫌われないように振る舞う・好き嫌い激しい・面食い・自分の世界観にこだわり孤立																											
■付き合い方				■叱り方																											
人を見る目に長けている。人の好き嫌いがはっきりしている。丁寧、上品、情熱的なものが要求される仕事をさせると喜んでやる。正義感が強いので、悪いことはさせない。人にはっきりものが言えないので、言いにくいことは代弁してあげると楽になる。				おおらかで素直だが、自分のすることに関しては意外に剛情な面がある。余計な言い回しはせず、真正面からズバッと叱るとよく効く。																											
		<b>■相生</b> ・木生火 火は木に生じられる ・火生土 火は土を生じる  <b>■相剋</b> ・火剋金 火は金を剋する ・水剋火 火は水に剋される				<b>■五行のバランス</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th>寒</th> <th>暖</th> <th>燥</th> <th>湿</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>庚</td> <td>甲</td> <td>甲</td> <td>庚</td> </tr> <tr> <td>辛</td> <td>乙</td> <td>乙</td> <td>辛</td> </tr> <tr> <td>壬</td> <td>丙</td> <td>丙</td> <td>壬</td> </tr> <tr> <td>癸</td> <td>丁</td> <td>丁</td> <td>癸</td> </tr> <tr> <td>己</td> <td>戊</td> <td>戊</td> <td>己</td> </tr> </tbody> </table> ←干合は対極に位置する		寒	暖	燥	湿	庚	甲	甲	庚	辛	乙	乙	辛	壬	丙	丙	壬	癸	丁	丁	癸	己	戊	戊	己
寒	暖	燥	湿																												
庚	甲	甲	庚																												
辛	乙	乙	辛																												
壬	丙	丙	壬																												
癸	丁	丁	癸																												
己	戊	戊	己																												
<b>■丁の成長段階</b>																															
未成熟	未成熟な段階では、迷いが多く細かいことが気になり、他人を頼ってばかりでなかなか行動に移せず、グチが多くなる。																														
途中	成熟途中の段階では、迷いは多いが、ほがらかで、周囲を気遣う温かさがあがり、人に嫌われるような行いはしない。																														
成熟	成熟した段階では、弱きを助け強気をくじく正義感が強く、熱い情熱を内に秘め、知性をひけらかさない品性がある。																														
<b>■季節総論(窮通宝鑑より)</b>																															
火は、文明、文化の象であり、万物は火の恩恵によって繁栄する。火は不可欠のものであって、これがなければ生存することができない。																															
生まれ月	欲しい干	調 候																													
寅月	甲・庚	春は木が盛んになっているので木を多く見ればくすぶり燃えない。甲の次に庚の斧を用いて丁に引く事が必要。																													
卯月	庚・甲・乙	卯月の木は青くて水分が多いのでなかなか燃えない。天干に庚そして甲があれば良好。																													
辰月	甲・庚	湿土の土に丁が洩れていくので甲を先に用い、次に庚の斧で伐採する。命式に甲庚の両方が天干にあると発展する。																													
巳月	壬・甲・庚	巳月は火が建禄となるが丙が丁の光を奪うので、さほど強くない。調候として壬が必要だがひとつで良い。次に甲を用い庚となる。																													
午月	壬・庚・癸	丁はその本質が人工の火なので甲を離す事はできないが、午月だけは甲は不要。先ず壬を用いる。水源の庚が次ぎ。																													
未月	甲・庚	甲の生扶がなければ人工の火を燃やし続ける事は出来ない。庚で甲を伐採する。																													
申月	甲・庚・丙	申月で丁は病地に入るので、氣勢は退く。したがって甲の生扶を取用する。丁に甲があるのは秋冬に可とする。丙の調候も必要。																													
酉月	甲・庚・丙	酉月で丁は死地に入るので、氣勢は退く。したがって甲の生扶を取用する。丁に甲があるのは秋冬に可とする。丙の調候も必要。																													
戌月	甲・庚・戊	戌月で丁は墓地に入るので、氣勢は退く。したがって甲の生扶を取用する。丁に甲があるのは秋冬に可とする。丙の調候も必要。																													
亥月	甲・庚・戊・丙	冬月の丁は甲があって庚で伐採して丁に引く事を良好とする。冬季は水が旺じて病となるので戊を薬として、丙を生扶とする。																													
子月	甲・庚・戊・丙	冬月の丁は甲があって庚で伐採して丁に引く事を良好とする。冬季は水が旺じて病となるので戊を薬として、丙を生扶とする。																													
丑月	甲・庚・戊・丙	冬月の丁は甲があって庚で伐採して丁に引く事を良好とする。冬季は水が旺じて病となるので戊を薬として、丙を生扶とする。																													